

2017年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、波列パターンが卓越し、アリューシャンの南でブロッキング高気圧が明瞭だった。また、米国西部、グリーンランドの南海上、西シベリアで正偏差、東シベリア～中国北東部、カナダ、ヨーロッパ北部で負偏差となった。極うずは平年と比べて弱かった。200 hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は北アフリカや東アジア東部で平年と比べて強く、寒帯前線ジェット気流は大西洋～ユーラシア大陸上で明瞭だった。海面気圧は、アリューシャンの南、グリーンランドの南東海上、カラ海付近で正偏差、東シベリア～チュクチ海、北米西岸、カナダ東部、ヨーロッパ北部で負偏差となった。850 hPa 気温は、アリューシャンの南、米国西部、沖縄・奄美周辺で高温偏差、東シベリア～中国北東部、カナダ、グリーンランドの東海上で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、中部インド洋赤道域～インドネシア付近で活発、西部～中部太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にアフリカ～インド洋を東進した後、不明瞭になったが、月の終わり頃に再びインド洋～インドネシア付近を東進した。対流圏上層では、ユーラシア大陸上で亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンがみられ、中国南東部では高気圧性循環偏差となっ

た。対流圏下層では、インド洋で低気圧性循環偏差、太平洋で高気圧性循環偏差が、それぞれ南北半球対でみられ、特に日本の南で高気圧性循環偏差が明瞭だった。海面気圧は、太平洋東部で正偏差、インド洋～太平洋西部で負偏差となった。南方振動指数は+1.0 だった。

世界の天候

2017年11月の世界の月平均気温偏差は+0.30°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。11月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.72°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

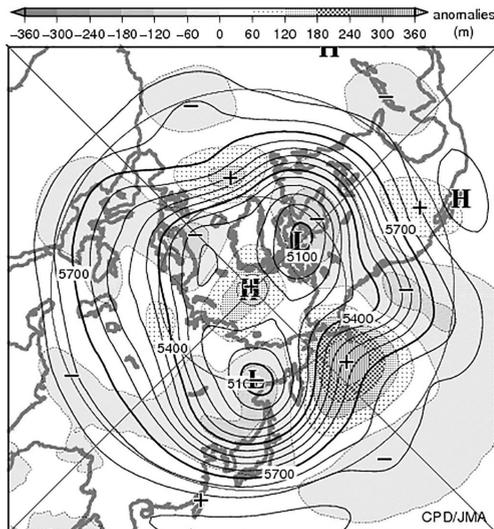
- 米国西部～メキシコ中部で異常高温となった。
- マレー半島～ジャワ島で異常多雨となった。
- 英国南東部～アルジェリア北部で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

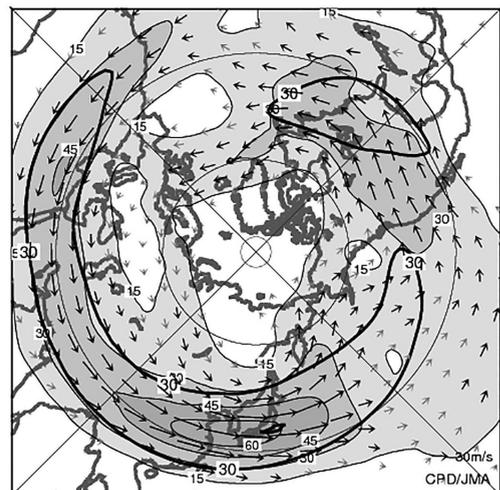
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

「気候系監視速報」をご覧ください。

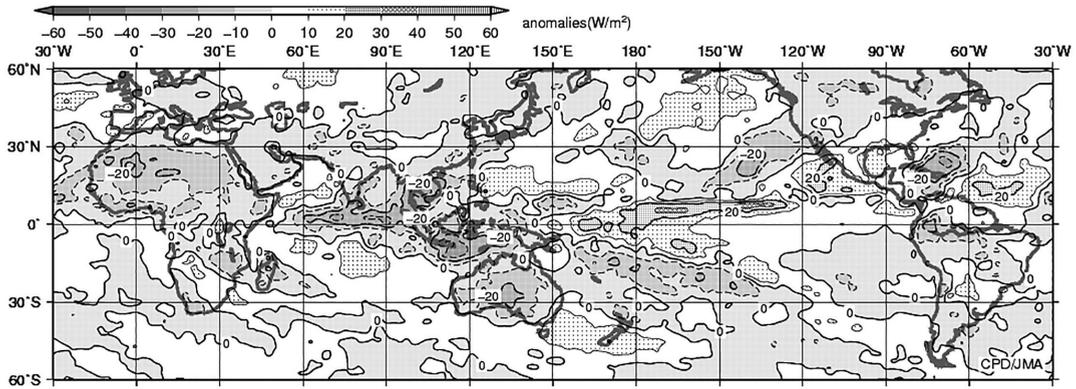
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2017年11月の北半球月平均 500 hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

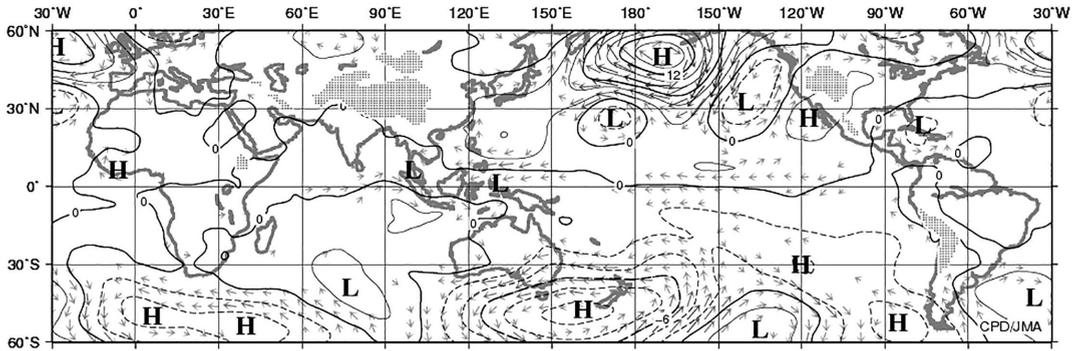


2017年11月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

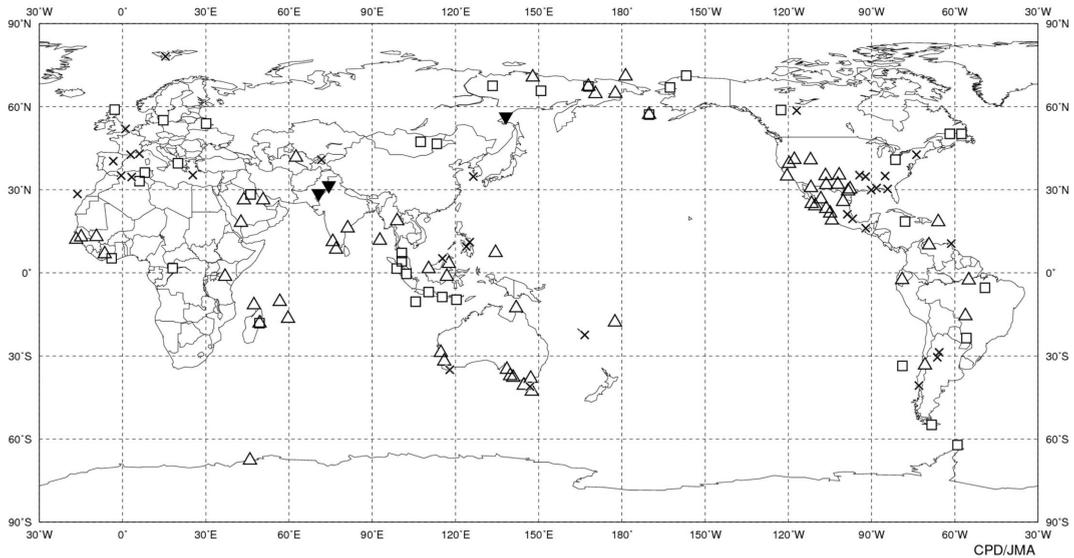


2017年11月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2017年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981～2010年の平均値。



2017年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。